

「地域創生・SDGs 【共創】実践」教室

～北海道を元気に！地域の宝物を掘り起こし、よく研げ！～

純農村の村民主体のひと育て・まち育て

—北海道真狩村—

この原稿は2024(令和6)年1月4日に執筆しています。辰年は陽の気が動き、万物が振動することから、活力旺盛で大きく成長し、形がととのう年といわれています。

昨年中の地域経済の低迷、物価高騰や円安などのなか、明るい年になるよう、景気回復など、大いに期待していたところ、大変厳しい新年、辰年の始まりとなりました。

2024(令和6)年1月1日16時10分に能登半島で発生の最大震度7の地震があり、被災の皆様からお見舞い申しあげますとともに、お亡くなりになった方々のご冥福を心からお祈り申しあげます。

その後も被災地では余震が続いており、皆様には、真冬の寒さ、大変ご不便ななか、日々お過ごしと存じます。被災地の一刻も早い復旧・復興に、私も協力・支援してまいります。

そのようななか、1月2日夕刻、羽田空港C滑走路において航空機事故が発生しました。能登半島地震の被災地支援に向かう海上保安庁の航空機と日本航空機との衝突事故であり、海上保安庁の職員5名がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

防災・減災対策や危機管理対策の重要性

を痛感しており、今後とも地域創生・SDGsの推進、地域人財養成と定着など、協力・支援してまいります。

—はじめに—

2023(令和5)年4月、私は東京から出身地の北海道へ拠点を移し、主に北海道内179市町村はじめ、国内外のまちを訪問し、「五感六育[®]+α」思考による現状分析や課題整理、希少性を生かした「ひとこと」ものの展開など、課題解決策に向けた対話を大切に、地元ニーズに応じた協力・支援を大いに。特に過疎地域や離島、被災地の現場を自ら歩き、実学・現場重視の視点で協力支援を実施している。

このたびは、北海道真狩村役場を訪問し、岩原清一真狩村長ほか村役場職員から、地域創生・SDGsの推進、地域人財の養成・定着、基幹産業振興や子育て政策のこと、また、「五感六育[®]+α」分析による立体的な

ストーリー化など、問題点や課題、重点政策等の説明を受け、その後、公立図書館や道の駅真狩フラワーセンターなど、村内の主な施設等を視察したので、ここで紹介したい。

—まちの紹介—

真狩村といえば、羊蹄山の麓のまち、農産物の名物のゆり根、豆腐のほか、予約もなかなか入れられない地元食材を生かした人気のオーベルジュ、まったり温泉、円形ハウス(ちびっこ広場兼休憩所)や100円ショップ導入の道の駅などを思い浮かべる方も多いことであろう。

真狩村は「えぞ富士」と呼ばれ親しまれている羊蹄山(1,898m)の南ろくに位置し、畑作農業を基幹産業として発展してきた純農村である。春から夏にかけて晴天の日が多いが、冬は降雪が早く、道内屈指の豪雪地帯でもある。村の総面積114.25kmのうち、畑と牧場が約3割を占め、農業の産業生産額、従事者数はいずれも約4割になる。特に、1981(昭和56)年9月、「生涯学習の村宣言」をし、村民自らが学習し、ともに学習環境づくりを目指しているまちだ。主な農作物は、じゃがいも、大根、人参などで、中でも食用ユリ根は、全国一の出荷量を誇っている。演歌歌手の細川たかさんの出身地と



当コラム執筆者の著書
「地域創生 成功の方程式」